

# 信府統記

享保九 (1724 年) 松本藩の鈴木重武と三井弘篤が編述。明治十七年吟天社版より。

## 〔「信府統記」卷一〕

○戸隠山へノ道筋同縁起 善光寺ヨリ戸隠山中院へ四里善光寺ヨ

朝日山古城善光寺ノ堂ヨリ北東ニアリ城主前二見ユ 横山古城善光寺ノ宿外東ノ山ニアリ城主知レス カツ

ラ山古城善光寺ノ堂ヨリ西北ノ隅ニアリ是ハ甲州へ属セシ落合備中守忠綱居城ノ由云伝フ往生寺ノ城トモ稱スルハカツラ山ノ麓ニ往生寺トテ常念佛ノ寺アリ是レ荊萱道心ノ往生ノ地ナリ此

大ミネノ古城善光寺ノ堂ヨリ北西ニ當リ坂ノ左ニアル山城ノ跡ナリ城主ハ知レス 久羅暮根峠善光寺宿外ヨリ坂ニ

荒安村善光寺ヨリ一里餘此村ハ飯繩山ノ稻荷大明神ノ社領御朱印百石ノ内ナリ神主仁科玄蕃此ヨリ飯繩山へ一里半程アリ北

赤坂クラホネ峠ヲクタリテナリ ヒノ木コ坂中院ヘカハル前ノ山是ナリ

○中院ヨリ奥院へ一里 中院此所ニ社アリ戸隠ニ社權現ノ其一ナリ御本尊ハ釋迦佛ト云フ説アリ祭禮ハ四月十八日七月八日ニ在リ

圓徳院戸隠ノ別當天台阿闍梨ナリ此外天台僧廿四坊アリ 比丘尼石中院ヨリ奥ノ院へ行道ニアリ此石ヨリ奥へ女人禁制 児御堂道ノ

下馬橋是ヨリ奥ヘ馬上禁制 一王門是ヨリ坂ヲ上ルニ王門前ノ左右ノ木ニ繩ヲ引ク正月八日惣山ノ衆徒讀經火防ノ祭アリトナリ

○奥院此所ニ天台僧十二坊アリ 本社東面ナリ 日ノ神天ノ石窟ニ入り給フトキ手力

雄神磐戸ノ側ニ立チタマヒシニ日ノ神御手ヲ以テ細メニ磐

戸ヲ開キ窺シ給ヒケル故手力雄神則チ御手ヲ引テ出シ奉ル

伊勢内宮相殿左ノ脇ニ此神ヲ祭ル此神ハ思兼神ノ子ナ

神代卷ニ見エタリ

リ春日別社ナリ或ハ一言主神ナリトモ云ヒ戸隠明神是ナリ

トモ云ヘリ神書抄ニ見エタリ或説ニハ多力雄命岩戸ヲ取テ抛ケタマヒシ

カハ落テ此山ニ在リシ故ニ山ノ名ヲ戸隠ト云トナリ多力雄

命ハ今ノ常州志津明神ナリト云ヘリ本社御本尊ハ觀世音ト云フ説アリ脇上青面金剛毘沙門天ナリ又外ニ不動明王毘沙

門ノ兩尊アリ共ニ四体皆古佛ナリ或ハ云行基ノ作ナリト此所祭禮四月十五日七月十五日ナリ此所ニ觀音籤アリ又云フ本社度々廢壞シテ今ノ本社ハ嘉禎三年ノ建立ナリト云

御供堂

本社ノ下

ナリ堂ノ右ノ方ニ廊下アリ毎夜丑ノ刻是ヨリ御供ヲ備フルトナリ堂ノ中ハ巖窟ナリ其深サ知ル人ナシ御供番灯明番ノ僧三年代リニ之ヲ勤勤ム三年ノ内毎日三度ノ行体脩番ノ内ハ里ニ下ラストナリ九頭龍權現是ナリ社頭ニ九頭ノ大龍ヲ畫シテ神体ヲ示ス參詣ノ僧俗梨子ヲ奉リ又ハ御供ヲ彼御供番ノ僧ニ頼ミテ供ナフルヲナリ

不動滝

本社ノ前ニアリ參詣ノ輩爰ニテ垢離ヲナス

○宝光院

中院ヨリ一里許リ西ナリ此所ニ社アリ三社權現ノ其一ナリ本尊ハ地藏菩薩ト云説アリ奥ノ院中院此所合三社權現是ナリ祭禮四月十六日七月十日ナリ此所ニ天台僧十七坊アリ三所都

テ五十三坊ナリ

○戸隠山社領千石

御朱印ナリ

〔「信府統記」卷五〕

○昔當國ニテ多田満仲鬼神ヲ撃平ケラレシトノミ神社考等ニモ載セタレ共委キヲハ見ヘス當國ニモ其事跡云ヒ傳ヘナケレハ分明ナラス田村利仁ノ鬼ヲ平ケ給フ説ハ前ニ見ユ又平惟茂水内郡戸隠山ニテ鬼ヲ斬ラレシト云フ事神社考ニモ見ユ當所ニ云ヒ傳ル説ハ惟茂越後ノ守護タリシトキ信濃國戸隠山ニ鬼神住テ人民ヲ悩スト聞テ狩ニ事寄セ山ニ入り此

鬼神ヲ斬リ平ケラル其時惟茂十七ヶ所手ヲ負養生トシテ小縣郡別所ノ温泉へ入湯アリケレトモ終ニ叶ハス其所ニテ卒セラル、故今ニ古墳アリ又別所北向ノ觀音ハ惟茂ノ守リ本尊ヲ安置セリ彼鬼ハ紅葉ト云フ鬼ナリシトカヤ鬼無里村ノ名ハ此時ヨリ起レリ今ニ彼ノ虫倉カ獄ト云フ峯ニ鬼ノ骨トテ積テアリト云フ彼鬼女カ子孫モ殘リテアノリトカヤ是又山姥ノ類ヒナルニヤ

註1 割注の「本社御本尊ハ觀世音ト云説アリ脇上青面金剛毘沙門天ナリ」の「脇上」はママなるも「脇士」カ。

註2 「近代デジタルライブラリー」の「信府統記」巻一 (DOI 10.11501/765128) の第三信濃国郡境記第一の31と32コマ目、また「信府統記」巻五 (DOI 10.11501/765132) の32コマ目に画像。「信州デジくら」にも。「信濃史料叢書」(戸田家写本)、「新編信濃資料叢書」(朽木文庫)に翻刻。